

2023年度

事業計画書

TAKEDA HOSPITAL GROOP

HOK

老人保健施設 白寿

高齢サポート・醍醐南部

京都市下京区地域介護予防推進センター

基本理念 **真心**を込め、そして**信頼**を

【基本方針】

1. 利用者様の人権を尊重し、個々に適ったチーム介護を提供する
2. 質の高い、満足される介護を提供し、在宅復帰を積極的に支援する
3. 職務の研鑽を深め、知識や技術の向上を図る
4. 職員の施設運営参画意識を高め、健全な施設運営を図る
5. 武田グループ間、他事業所および地域との連携の強化を図る

【QMS 品質目標】



【白寿 中長期目標】 2021(令和3)年度～2025(令和7)年度

- (1)BCP にもとづいた事業継続と ICT 活用による活発なコミュニケーションを図る
- (2)誰にでも自信を持って紹介できる質の高いサービスと“ほっ”とする施設運営を目指す
- (3)職員一人ひとりが5年後の白寿での役割や成りたい自分が語れる組織を目指す

※京都市醍醐・南部地域包括支援センター、京都市下京区地域介護予防推進センター含む

☆この一年間忘れずに取り組んで欲しいこと

2023 年度共通目標

- 1) 利用者の自立支援、自己決定及び意思決定支援に向けた努力を重ねること
- 2) 職員一人ひとりが組織の一員であることを忘れず、我が事として笑顔で行動しよう
- 3) 職員一人ひとりが倫理観を持って利用者の尊厳と目標実現のため行動しよう
- 4) 利用者・職員相互の楽しいと感じる時間が共有できるケアを実践しよう
- 5) 地域の役割モデルとなれるようチームで在宅療養支援機能の充実を図ろう
- 6) LIFE の情報提供及びフィードバックデータをベンチマークし、ケアに活かそう

【入所・短期入所】

□ 中長期目標

1. BCPにもとずいた事業計画継続を理解する為、入所全職員で研修する。
2. 笑顔を忘れず、一人一人に丁寧なケアを行い、心地よく過ごせる施設にする。
3. 在宅復帰を目指し他職種でのチームケアに加え、家族とも連携を図ることで安心して在宅復帰が出来るようにサポートする。利用者個々の課題に沿ったプランニングをする。

□ 重点課題

1. 利用者の目標実現の為、自己決定及び意思決定支援に向けた努力を重ね、職員一人一人が我が事として笑顔で行動をする。
担当利用者の状態や取り巻く状況に関する情報を収集・分析し、利用者が求めていることや解決すべき課題を明確にする。
課題をケアプラン援助内容に入れ、日々のケアにあたる。
利用者や家族からの苦情なく、心地よく過ごしていただく。

□ 今年目標

1. 利用者や家族、職員に笑顔で挨拶をしっかりとする。
2. 利用者には過ごし易く、職員には働き易い環境になる為の改善提案を出す。

【通所リハビリ】

□ 中長期目標

1. 地域から選ばれる地域包括ケアシステムのコアとなる老人保健施設として、利用者の自立・在宅復帰の支援、在宅生活の継続支援を目指す。
2. 質の高いサービスの提供するため、職員一人ひとりが笑顔で思いやりのある対応ができる施設運営を目指す。
3. 職員間のコミュニケーションが良好で働きやすい職場環境の下、職員一人ひとりがいきいきとやりがいを持って働ける組織を目指す。
4. 感染症や自然災害発生に伴うBCP(事業継続計画)に基づいた訓練を行い、平時から備えることで非常時にも事業が継続または早期に再開できるよう職員の実践教育を行う。

□ 重点課題

1. 月曜日～金曜日の登録利用者数を平均的に確保、土曜日に関してはすべての時間枠に登録者を確保し、稼働の安定を図る。
2. 利用者のQOL向上のため要望や意見を収集し、利用者・職員が共に考え改善を図る機会を持つ。また、多職種が協働し社会参加・活動やIADLの向上を意識した個別ケアを実践する。
3. カンファレンス、意見交換の場を多く持ち、職員一人ひとりが日々の業務の振り返りを行うことで、業務改善や働きやすい職場環境作りを自分事として捉え、やりがいをもって取り組める組織作り。
4. 感染症や大規模災害発生に備え、『平時』・『予想される場合』・『発生時』に対する訓練・研修を行い、定期的な評価と見直しを行うことで非常時に対応可能な組織作り。

□ 今年目標

- ・利用者のニーズを読み取り、柔軟な対応をすることで稼働の向上・安定を図る。

- ・利用者と共に考え、希望が実現出来る環境と継続的な改善を図ることで魅力ある事業所を作る。
- ・内部研修により、継続的な学習・事故予防対策を講じる機会を持つ。

職種別目標

看護

□ 方針

利用者に対して適切なアセスメントを行い、質の良い医療・看護が提供できるよう他職種と連携を図る

□ 重点課題

1. 利用者の異常や不調が見られる場合の早期発見と適切なアセスメントを行い、医師に報告し適切な治療が受けられるようにサポートすることができる
2. 感染対策を行い率先して行い、緊急時の対応と指導・教育を行うことができる
感染対策の知識を深める
学習の機会を活用する
3. 働き続けられる職場づくりを目指す
有給取得率のアップと連休の取得ができる。
入所・通所の看護師の連携を図る

□ 今年目標

1. eラーニングを活用し看護師の教育を行う
2. 利用者の体調を管理し、必要な治療が提供できるように職種間での情報共有を行う。

介護

□ 方針

利用者への思いやりをもって対応する。

□ 重点課題

1. 利用者や家族に満足していただけるケアを行い、満足度調査での結果を前回より良いものにする。
日常の活動を充実させ、利用者が楽しさを感じながら生活リハビリを行える。
長期入所: 適宜、日常の様子をお伝えし、安心して利用していただく。
短期入所: ショート退所サマリーを用い、わかりやすく日常の様子を伝え、安心して利用していただく。

□ 今年目標

1. 利用者の目標実現の為、訪問や面談で利用者や家族とのコミュニケーションを多く取り、利用者や家族とも情報共有を行い、老健として出来るケアを行う。
2. 利用者、職員相互に日常での活動や行事などを実施し、日々の生活リハビリが楽しいと感じる時間が共有出来るケアを行う。
利用者や家族とのコミュニケーションを多く持ち、情報収集・共有を図る。
日々の生活リハビリを充実させる。
カンファレンスやケアなど、日々の出来事は記録する。申し送りをすることで入所全職員で共有する。

介護支援専門員

□ 方針

ご利用者を尊重し、ご利用者・ご家族の相互支援の視点から必要とされるケアマネジメントを実践する。他職種との連携を重視し情報の共有に努め、ご利用者とご家族が安心して在宅で生活が送れるように、居宅ケアマネ等との連携を密に行い、在宅復帰に向けた取り組みができるように努める

□ 重点課題

1. 在宅復帰・在宅支援を図っていく。認知症、中重度者にも質の高い施設サービスが提供できるよう、サービス担当者会議において他職種協働で多面的に検討する。
2. 本人、家族、居宅ケアマネジャーからの情報の聞き取りを強化し、他職員と共有する。ケアマネジメントを通じて、やりがい発信するとともに介護支援専門員資格取得、人材育成に取り組む

□ 今年目標

・疾患別ケア、生活リハビリの視点を盛り込み、個別性に応じた具体的なサービス内容を盛り込み他職種で実践する。その結果を根拠(記録等)をもって評価できる。

栄 養

□ 方針

「いつまでも美味しく口から食べられる」を目指し、

入所時の情報収集、摂食嚥下機能の評価、摂食状況の確認、低栄養リスクの改善に多職種協働で取り組み、一人ひとりの状態に合わせた栄養管理・食事提供を行う

□ 重点課題

1. ケアマネジメントの質の向上

利用者個々に合わせたケアを目指し、入所時のスクリーニング、入所後のアセスメント、モニタリングにおいて、多職種で情報共有・検討を行う

2. 在宅復帰支援

在宅で調理しやすい食事内容を考慮し、利用者個々の摂食嚥下機能に合わせた食事を提供
経時的な変化に合わせて評価と調整を行う

3. 安全で美味しい食事提供

職員の健康管理・衛生管理を行い、安全な食事を提供する

職員個々のアイデアを引き出す事で、サービス向上・リスク回避に繋げる

利用者のニーズを的確に把握することで、満足度向上に努める

□ 今年目標

1. 厨房内の環境整備
2. 摂食嚥下機能スクリーニング評価手順書の活用

リハビリ

□ 方針

利用者一人ひとりの出来る活動に着目した個別性の高いケアの一助として、多職種協働したリハビリテーションを提供できる施設を目指し、組織の一員として成長に貢献できるように努める。

□ 重点課題

入所:

在宅生活を意識した目標を設定しプログラムの個別性を高めていく。リハビリテーションに関する専門性を発揮し、個別リハビリテーションプログラムと生活リハビリテーションの関連性が高まるよう多職種連携の取り組みを行っていく。

通所:

在宅療養支援の役割と自立支援の視点を持って、リハビリテーションマネジメントを実践していく。情報収集およびアセスメントを丁寧に行い、個々の特性に応じたプログラムを一人ひとりに実践し、その計画の実行性と成果を確認する。

□ 今年 of 目標

対象者の状態変化を多職種及び対象者自身にも共通認識として捉えられるよう、ICT/IoT を積極的に活用し、客観的な指標による評価を行う。

支援相談員

□ 方針

他職種との連携を重視し情報の共有化に努め、ご利用者とご家族が安心して在宅で生活が送れるように、入所中より積極的に相談援助業務を展開し、居宅ケアマネとの連携を密に行い、在宅復帰に向けた取り組みができるように努める

□ 重点課題

1. 新規ショートステイ利用者の獲得を目指し、随時実利用者 15 名を目指す。活動の様子を機関誌やホームページ、タブレット(動画撮影)を活用し、他職種協働で家族や関係事業所へ情報発信する
2. 他職種との調整役として、施設内の他職種と報告・連絡・相談を密に行うと共に、関係機関と連携を強化し、在宅復帰に向けた計画的な支援、提案を実施する

□ 今年 of 目標

- ・ LIFE の情報発信、加算請求に関して、確認体制を強化し正確に対応できる。
- 令和 6 年度の介護報酬改定への準備ができる

事務

□ 中長期目標

地域と病院と施設をつなぐ連携の要としての自覚・目的意識を持って組織運営に携わる

□ 重点課題

1. 受付・電話対応は「施設の顔である」との意識を持ち、業務に取り組む
2. 施設運営がスムーズに回るよう一人一人が組織の一員としての自覚を持ち、事務所内 及び各部署との連携を図る

□ 今年 of 目標

1. 受付・電話対応時におもいやりの心を持って対応し接遇マナーの向上を図るとともに、正確な情報収集及び伝達に努める
2. 業務個々の目的を明確にし、進捗確認と組織全体としての生産性・効率性向上を常に意識した結果や成果が見えるように取り組む

【居宅介護支援】

□ 中長期目標

1. 医療・介護のかけはしとして、利用者が在宅で安心して過ごせる、地域に根ざした事業所となることを目指す。
2. 主任介護支援専門員・介護支援専門員の専門性を発揮し、地域の中核となる事業所を目指す。

□ 方針

老人保健施設や地域包括支援センターを併設した居宅介護支援事業所として、地域の中で在宅支援の中心となれるよう、ケアマネジメントのスキルアップや信頼関係の構築、関係事業所や地域との連携強化を行い、選ばれる事業所となる。また、医仁会武田総合病院と連携を図り、スムーズな在宅復帰・支援を行う。

□ 重点課題

1. 働き方改革を意識した業務の効率化の実施
2. 事例検討会やスーパービジョンの実施により、ケアマネジメントの質の向上を目指す
3. 医療機関、地域との関りを増やし、連携強化を図る
4. 災害、感染症に関する、予防や業務継続(BCP)についての取り組みの実施

□ 今年目標

1. BCPの見直しと個別避難計画作成
2. 作業効率化を図り、遞減性導入後も業務負担が増えないようにする。

【高齢サポート・醍醐南部】

□ 中・長期目標(2021～2023年度までの第8期京都市民長寿すこやかプランに基づく3ヵ年)

- 1.健康寿命の延伸に向けた健康づくり・介護予防の推進
- 2.地域で支え合う地域共生のまちづくりの推進
- 3.住み慣れた地域で暮らし続けるための住まい環境の確保と支援の充実

□ 方針

コロナ禍の中でより重要性の増す地域のつながりを守るため、孤立防止の見守り活動や居場所の構築を工夫して関係機関とともに進めていく。また、多重課題のある対象者について早期にアプローチできるよう多職種連携を強め、相談機能を強化する。地域住民や団体、地域包括支援センター等関係機関との支援体制の強化を図り地域共生社会の実現に取り組んでいく。

□ 重点課題

- 1.アフターコロナ社会に対応した健康長寿と地域包括ケアの推進
- 2.高齢者が健康でいきいきと活躍できる環境づくり
- 3.認知症の方をはじめとした支援を必要とする高齢者等が自分らしく暮らすための支援の充実
- 4.医療・介護・生活支援サービス等の充実
- 5.職員の定着と育成

□ 今年目標

職員の半数が入れ替わるため、センター内業務の見直しとチームワークの形成

□ 年間行事計画等

<p>1.日常生活圏域、地域福祉組織中心、個別と3段階の地域ケア会議の実施</p> <p>2.介護予防事業の展開</p> <p>zoomによる介護予防教室の継続</p> <p>公園体操の継続</p> <p>ウォーキングイベント他、参集型による予防事業の開催</p> <p>3.醍醐認知症あんしん見守り隊活動の継続</p> <p>啓発班…サポーター養成講座の開催</p> <p>ネットワーク班…ネットワークの見直し</p> <p>4.医療。福祉。介護に関する、既存ネットワークの充実と新たなネットワークの構築</p> <p>いきいき応援ひろば、地域ケアマネ交流会の再開と継続</p> <p>5 災害対策、見守り活動の支援</p> <p>BCPの作成と避難行動要支援者名簿の活用</p>

【京都市下京区地域介護予防推進センター】

□ 方針

□ 重点課題

□ 今年目標

年間行事
